

S-KYT研修事業を実施して

いわき市消防本部総務課 主任 安藤 成央

1 はじめに

いわき市は、福島県の東南端（浜通り地方）、東京と仙台のほぼ中間に位置し、昭和41年10月「和を以て貴しとなす（以和貴）」の精神のもと、14市町村が大同合併し誕生しました。

市内には15の工業団地を有し、東北地方第1位の工業製品出荷額を誇る製造業を基幹的産業として、水産業や農林業、さらには約60kmに及ぶ海岸線に点在する9カ所の海水浴場や温泉を中心とした観光サービス業など、多様な産業が活発に展開されています。

そして、いわきを語るうえで忘れてはならないのが、平成18年に全国公開され、第30回日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞し、現在のフラダンス人気の先駆けであり、廃れ行く炭鉱の

まちで起きた奇跡の実話、映画「フラガール」です。

この映画の舞台となった、常磐ハワイアンセンター（現スパリゾート ハワイアンズ）では、現在も多くのフラガールたちが観客を魅了し続けています。

ぜひ、いわき市を訪れていただき、日本三古泉の一つに数えられる「いわき湯本温泉」と豊かな海の幸で「東北のハワイ」をご体感ください。

身も心も、とっても元気になりますよ！

2 いわき市消防団沿革

いわき市消防団は、昭和41年10月、常磐地方14市町村が大同合併して、「いわき市」が誕生



講演の様子

したことに伴い、1市14消防団のいわき市連合消防団として発足しました。その後、昭和47年4月に機構改革を行い1市1団となり、いわき市消防団と改称しました。

現在では、1団7支団47分団の3,800名で組織され、司令車1台、消防ポンプ自動車47台、小型動力ポンプ及び積載車278台を配備する、福島県随一の規模を誇る消防団となっています。

また、消防団員で組織する「はしご乗り行事保存会」があり、出初式では、その華麗な演技を披露し、火消しの伝統と文化を現代に伝えています。

3 「S-KYT研修」を実施した経緯

本市消防団では、災害現場での安全管理能力の向上を目的とした各種研修を定期的に行っていますが、これまでの多くが講話を中心としたものでした。

特に消防団幹部を対象とした研修は、その傾向が強く、参加した団員からも「毎回、内容が同じだね。」といったご意見を頂くなど、マン

ネリ化していたのが実情です。

そこで、何かもっと安全管理意識を高め、公務災害の抑制に繋がる効果的な研修を企画できないものかと苦慮していた折、消防基金主催の全国研修会（平成21年10月）へ出席する機会を得ました。

その研修会で、消防基金S-KYT指導員の多々羅氏による「S-KYT研修の必要性とその効果について」と題した講演を聴き、その内容から、ぜひ、本市消防団においても開催したいと考え、団長に相談したところ、賛同が得られ、開催する運びとなりました。

4 S-KYT研修の実施

当初、対象者へ開催を通知したところ、初めての研修に対する不安の声もありました。

しかし、いざ実施してみますと、災害現場における危険要因の発見、事故防止のための「指差し呼称」、そして幹部団員として日ごろから執るべき行動など、各々の知識や経験を持ち寄り、解決策を導き出す内容に、議論白熱する姿



班に分かれての研修

が多く見られました。

参加者からは、「消防団幹部として、団員の安全確保が最重要であることは認識していたが、S-KYTを実践することにより、危険予知のスキルアップをすることができると思う。」「危険の捉え方や危険回避の方法が人それぞれで参考になった。」「消防活動時のみならず、常に存在する危険を予知する能力を養う必要があると感じた。」などの意見が多く寄せられました。

この僅か数時間の研修が、いかに充実したものであったかが容易に想像できると思います。

5 今後の取り組み

本市消防団初のS-KYT研修は、正副団長以下約80名の幹部団員を対象に2会場に分けての開催となりました。

研修終了後、参加者の多くから、今後の継続した開催と併せ、「現場の第一線で活動する団員にもS-KYT研修を受講する機会を作るべきだ。」との声が挙がりました。

このことから、今後も消防基金のご協力のもと、充実した研修の機会を設け、事故の無い消防団活動のための環境作りに取り組んでまいりたいと考えております。



輪になって指差し唱和



班でタッチアンドコール